

アイメディ・オルソケー[®]処方手順（第2版）

- 処方方法：角膜曲率半径測定と矯正視力でレンズを選び、追加矯正で確認を行い、処方レンズを確定します。

別紙「処方を始める前に 検査機器とレンズの相性を確認しましょう」参考

- 基本的に一般コンタクトレンズと同様の手順で行います（角膜形状解析図は必要に応じ）。その中で、本レンズを処方するために必要なデータは角膜曲率半径測定値と矯正視力です。
- 次は、実際患者の初診日診療記録から抜粋した角膜曲率半径測定と屈折検査（矯正視力）です。

表 1 角膜曲率半径測定

	R1	R2	Ave
右眼	7.76	7.57	7.67
左眼	7.77	7.56	7.67
※ 検査機器によって、R1はH又はK1に、R2はV又はK2に表記します。			

表 2 屈折検査（矯正視力）

右眼 = 0.3 (1.5 x S -2.0 C Ax)	
左眼 = 0.1 (1.5 x S -4.0 C Ax)	
両眼裸眼視力 = 0.15	両眼矯正視力 = 1.5

- 上記検査から角膜曲率半径測定の「Ave」と屈折検査（矯正視力）の「S」で処方するレンズを選びます。
- 角膜曲率半径測定のAve（右眼 7.67mm、左眼 7.67mm）はフィッティングのBCを示します。
- 屈折検査のS（右眼-2.00D、左眼-4.0D）はパワー（Target Power、矯正視力）を示します。
- トライアルレンズの中で、右眼に「BC7.67、TP-2.0」のレンズを、左眼に「BC7.67、TP-4.0」のレンズを選び、目を閉じた状態（15分～60分）でテスト装用します。
- レンズは非殺菌のドライ状態で保存されるので、使用する前に必ず消毒・洗浄を行ってください。
- テスト装用後、追加矯正で視力の確認を行い、その後、Slitでフィッティング検査を行います。追加矯正の視力は、0.50D～1.00Dくらい強く矯正します。
- 患者にレンズを渡し、夜間装用するようにします。翌朝又は1週間以内に再検査を行います。
- レンズを渡すときは、当社から提供された「使用上の注意」も渡し、また定期検査のスケジュールを守るように指導します。
- 患者の選び方（処方成功のKey）
 - ✓ 基本的に年齢制限はないが、老視の疑いがない（40歳以下）の患者が主な対象で、乱視は-1.75D以下を、縦乱視は-0.75D以下を対象にします。
 - ✓ SCL（Dispo含む）使用者は2週間～1ヶ月間メガネ使用を勧めます。

表 3 角膜曲率半径測定及び処方レンズ

(R) S C A 2.25 - 0.50 15 - 2.25 - 0.50 13 - 2.25 - 0.50 5 <- 2.25 - 0.50 13> mm D deg <R1 7.76 43.50 177> <R2 7.57 44.50 87> <AVE 7.67 44.00 > <CYL - 1.00 177> (L) S C A - 4.25 - 0.50 166 - 4.25 0.50 167 - 4.25 - 0.50 166 <- 4.25 - 0.50 166> mm D deg <R1 7.77 43.50 7> <R2 7.56 44.75 97> <AVE 7.67 44.00 > <CYL - 1.25 7>	アイメディ・オルソケー EG 13 R BC : 7.67 TP : -2.00 PWR : +1.00 DIA : 10.3 LOT : xxxxxx-xxxxxx	アイメディ・オルソケー EO 13 L BC : 7.67 TP : -4.00 PWR : +1.00 DIA : 10.3 LOT : xxxxxx-xxxxxx
角膜曲率半径測定	(右眼用レンズのラベル)	(左眼用レンズのラベル)
「BC」と「TP」（パワー）で患者に渡すレンズを注文します。		

http://eye-medi.com/clinic.php には添付文書が、http://eye-medi.com/orthok.php には処方・フィッティング評価に役立つ動画を載せております。参考にご覧ください。

